

10月17日（月曜日）・18日（火曜日）
総務・産業建設 両委員会合同
行政視察調査を実施

産業建設常任委員会
行政調査
 〔10月17日〕

【倶知安町の概要】

面積 261.34 km²
 人口 1万5千673人
 世帯 8,226戸
 （うち外国籍住民962人）
 高齢化率24%
 （道内で8番目の低さ）

【町名の由来歴史】

アイヌ語のクツシャニ「曲がりくねった川」を意味し、尻別川の支流、倶登山川は、古くはクツシャニ（クツサニ）と呼ばれ、この「クツサニ」が「クツチャン」に変化したもので、漢字表記には、「倶（とも）に安きを知る」という先人の想いが込められています。

【地勢】

北海道の南西にあって札幌から2時間、後志のほぼ中央に位置し、南東に支笏洞爺国立公園、羊蹄山、西に国定公園、ニセコ連邦が連なり豊かな自然に恵まれており夏は温暖で山岳地は家畜の飼育に、盆地は肥沃な農耕地として馬鈴しょ・ビートの耕作に適しています。冬は道内有数の豪雪地にあって



てニセコ連山は格好のスキー場となり、道内外、海外からも多くのスキーヤー、ボーダーが楽しんでる。また、尻別川の豊富な水は羊蹄山の湧水とともに農業・工業に利用されている。

【農業】

山岳部は酪農地帯、比較的平坦な盆地は畑作地帯として、稲作、畑作、酪農を基幹として、敵地適作を進め、米、馬鈴しょ、小豆、大豆、小麦、てん菜等を中心に町の基幹産業として地域経済の発展に寄与しており、中でも馬鈴しょが農業粗生産額40億5千万の内19億2千万と43.2%を占めており、町の特産品となっている。

【観光】

「ニセコエリア」の中にあり冬期間はスキー、夏期はラフティング等の観光を中心に通年型長期滞在地として発展させるため、「ロングステイ事業（アジア富裕層、首都圏ファミリー層等の新たな顧客層の獲得）」・「スポーツツーリズム事業（自転車イベント）」・「フロートレイル事業（スキー場夏季利用）」を進めている。



ンバイクのコースに整備する国内初のフロートレイル導入に向けて造成、体験会の開催を行っていました。また、夏季スキー場の新たな活用を検討していました。

【調査内容】
 今年で開業50周年の「ぴっぷろスキー場」はセンターハウスの新設、リフト整備等でリニューアルオープンを迎えます。懸案事項でしたセンターハウスも今年度ようやく無事に改築が済み運営が出来ます。館内には総合案内所やスノーボードスクール、約300名収容のレストランにキッズコーナー、更衣室も完備してこれまでの視察や委員会での議論が形となり今までご利用のお客様に加え、新たなお客様も迎えられそうです。これまでも委員会ではゲレンデの冬期間はもとより夏季の利用について視察、調査を行って来ました。視察先の運用方法、内容等のハードルが高く現実には至りませんでしたが多額の参考として参りました。

「パウダースノー」の人気が着目され近年はアジア系の方々を中心に多数の来場を有し、北海道のインバウンド効果を牽引されています。現在では通年型長期滞在地と

観光資源の少ない比布町唯一の交流区域がスキー場を中心とした良佳村エリアです。町の冬季雇用もあるスキー場はセンターハウスの新設、イベントの増加等により多くの利用者が期待でき、リフト収入も昨年以上の売り上げが見込めると思っています。

【委員会所見】

北海道を代表する観光地「ニセコエリア」が夏季の滞在増を考えている要因の一つに夏と冬の観光業の平準化を考えていました。アジアの方々を中心としたインバウンド効果も徐々に少なくなり夏季観光の今以上の必要性、飲食業や

タクシー業を含む夏、冬の運送業等の売上差異などのようです。新設したセンターハウスを最大限に活用する夏季の良佳村エリアのリニューアルが必要と考えます。

総務常任委員会
行政調査
 〔10月18日〕

《由仁町の概要》
 【由仁町の概要】

明治25年 戸長役場がおかれ由仁村が誕生
 昭和25年 町政施行により由仁町となる
 平成25年 開町120年を迎える

【町名の由来歴史】

アイヌ語の「ユウンニ」（温泉があるところの意味）が語源とされている。

【地勢】

空知管内の最南端に位置する東西に8km、南北に32km総面積133.74km²、南北に夕張川、



倶知安町 町営旭ヶ丘スキー場
 夏場利用マウンテンバイクコース

新たなコンテンツを図る「グリーンシーズン活性化」事業を計画しており、その一つにスキー場夏場利用活性化フロートレイル事業があります。町営旭ヶ丘スキー場のゲレンデをマウンテン

夏季の滞在増を考えている要因の一つに夏と冬の観光業の平準化を考えていました。アジアの方々を中心としたインバウンド効果も徐々に少なくなり夏季観光の今以上の必要性、飲食業や